

2020年2月14日
千代田化工建設株式会社
IR・広報・CSR部

2020年3月期第3四半期決算説明会(電話会議)発表要旨 (2020年2月4日開催)

1. ハイライト

- 手持ち案件を着実に遂行、第4四半期に予定していた一部の利益を前倒しで獲得したこと、為替差損益が改善したこと等により、利益項目は全て修正前の通期予想を上回った。
- 2月3日に発表した通期予想の修正では、完成工事高は通期予想を据え置く一方、営業利益以下の利益項目は第3四半期実績と同程度もしくは若干下回る水準としている。第4四半期に予定していた一部の利益を第3四半期に取り込んでいること、新型コロナウイルスによる影響の可能性や為替変動リスク等を織り込んだことによる。
- 将来のリスクに対する感度と備えをさらに高め、安定経営を目指していく。

2. 業績概要

- 受注高 1,400 億円。第4四半期に大型案件受注を目指して準備中。受注残高 8,739 億円。
- 完成工事高 2,727 億円、通期予想の 70%でほぼ計画通りに進捗。
- 営業利益 245 億円、経常利益 209 億円、純利益 169 億円。
- 修正後の通期予想は、営業利益 250 億円、経常利益 200 億円、純利益 150 億円。

3. 受注高

4. 受注残高

(説明割愛)

5. 損益計算書項目

- 完成工事総利益は 365 億円、完成工事総利益率は 13.4%。いずれも修正前の通期予想上回った。
- 販売費及び一般管理費は 119 億円。前年同期 136 億円に対して 17 億円、約 12%圧縮。
- 営業外損益は△37 億円。主な理由は為替差損。
- 特別損益・税金・非支配株主に帰属する純利期は△40 億円。主に海外案件及び国内子会社の税金費用。修正後の通期予想は△50 億円とした。

6. 利益要因別分析

- 第3四半期は、完成工事総利益 145 億円(内訳:エネルギー分野 107 億円、地球環境分野 38 億円)で、販管費△39 億円、営業外・特別損益 35 億円、法人税等△19 億円の結果、純利益は累計で 169 億円。

7. 完成工事高 (説明割愛)

8. バランスシート

- 自己資本は 2019 年 3 月末△601 億円から 2019 年 12 月末 308 億円、909 億円増加、自己資本比率は 7.6%。
- 長期借入金は 2019 年 3 月末 159 億円から 2019 年 12 月末 358 億円、199 億円増加。三菱 UFJ 銀行の劣後ローン 200 億円の実行による。三菱商事の融資枠 900 億円は未使用で、将来の資金繰りの備えとして確保。
- 現金および預金等は 2019 年 3 月末 695 億円から 2019 年 12 月末 1,212 億円、517 億円増加。
- JV 持分資産は 2019 年 3 月末 1,110 億円から 2019 年 12 月末 980 億円、129 億円減少。海外大型案件の進捗による。
- 工事損失引当金は 2019 年 3 月末 676 億円から 2019 年 12 月末 356 億円、320 億円減少。海外大型案件の進捗による。

9. 財務基盤の強化

- 自己資本は 2019 年 12 月末で 308 億円に回復。今後、手持ち案件の確実な遂行を通じて、自己資本を着実に積み上げ、再生計画の目標である自己資本比率 20%以上の早期実現を目指す。

10. 通期業績予想

- 上記の通り、完成工事高は通期予想を据え置く一方、営業利益以下の利益項目は第3四半期実績と同程度もしくは若干下回る水準としている。

11. 既存案件の遂行状況

- 当社が海外 LNG 案件を共同で遂行している米国マクダーモット社は 1 月 21 日に財務再建策を発表しチャプター11を申請したが、マクダーモット社は当社との共同遂行案件を含む全て

のプロジェクトの履行を継続することを表明しており、共同遂行中の4案件(キャメロン LNG、フリーポート LNG、ゴールデンパス LNG、モザンビークエリア 1LNG)は全てこれまで通り遂行されている。当社は引き続き、顧客、マクダーモット社、その他のジョイントベンチャーパートナーと緊密に連携して、引き続き予定通りの完工を目指す。

以上

この資料には、本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。

従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。